

フロービルダー(自動化)マニュアル

Salesforce のフロービルダーは、プログラミング(Apex コード)を書くことなく、画面上のマウス操作(ドラッグ&ドロップやクリック)だけで社内の業務プロセスやデータ処理を自動化できる、Salesforce 最強のノーコード自動化ツールです。

💡 ノーコード開発のメリット

プログラムを書かないため、担当者が変わってもメンテナンスしやすくなり、Salesforce の年 3 回のバージョンアップ時にも不具合が起きにくい堅牢なシステムを維持できます。

フロービルダーでできること

例)

- **データの自動更新・作成**

商談が「成立」になったら、関連する取引先や納品レコードを自動で作成・更新する。

- **条件分岐(メール自動送信など)**

顧客の契約プランや金額に応じて、担当者に通知メールを送ったり、別の承認者に割り当てたりする。

- **カスタム画面の作成(画面フロー)**

ユーザーがウィザード形式で順に入力できるポップアップ画面を作成し、入力ミスを防ぎながらデータを登録させる。

フローの主な種類

フローを新規作成する際は、最初に「どのタイプのフローにするか」を選択します。

フローの種類	起動のタイミング・特徴	主なユースケース
レコードトリガフロー	レコードが「作成」「更新」「削除」されたときに裏側で自動起動します。最も使用頻度が高いです。	・事故が登録されたら担当者にメール通知 ・ステータス変更時に完了日時を自動記録
画面フロー	レコードページやホーム画面に設置して、ユーザーが入力したりボタンをクリックしたりして進んでいく対話型画面を作ります。	・入力項目の多い新規のウィザード画面 ・一括で関連レコードを修正するフォーム
スケジュールトリガフロー	指定した日時や、毎日・毎週の定期的なスケジュールに従ってバックグラウンドで自動実行します。	・夜間に契約期限切れ間近の顧客を抽出 ・月初に前月の未対応タスクをチェック

フロー開発・検証の基本 4 ステップ

フロービルダーは組織全体や実データに大きな影響を与えるため、行き当たりばったりで作らず、必ず以下の4ステップに沿って安全に実装しましょう。

1. 要件定義・データモデル設計

「どのオブジェクトの、どんな条件のときに、どの項目をどう変更・作成するか」のロジックを事前に紙やスプレッドシートで可視化・整理します。

2. サンドボックス（検証環境）での実装

本番環境に直接変更を加えず、必ずサンドボックス（テスト環境）でフローを作成します。本番データ誤書換えのリスクを防ぎます。

3. 動作確認・テスト

デバッグ機能やテストユーザーでの操作検証を行い、想定通りのタイミングで意図したデータが動くか入念にチェックします。

4. 本番リリースとユーザ周知

変更セット等で本番へ移行し、画面フローなどの場合はユーザーへ操作手順を周知して運用を開始します。

レコードトリガーフロー

例) 事故受付データのステータスが「完了」になったら、完了日時を自動で記録する

1. フローの新規作成画面を開く

- ① Salesforce 画面右上 [歯車マーク] > [設定] をクリックします。
- ② クイック検索ボックスに「フロー」と入力し、表示された [フロー] をクリックします。
- ③ 画面右上の [新規フロー] ボタンをクリックします。

2. フローの種類と開始条件の設定

- ① フローの選択画面で [レコードトリガーフロー] を選択し、[作成]を押します。
- ② 【オブジェクトの選択】
対象のオブジェクト(例:「事故受付」カスタムオブジェクト)を選択します。
- ③ 【フローをトリガする条件の選択】
「レコードが更新された」を選択します。
- ④ 【条件要件の指定】
項目が特定の値に変わったときを指定します
(例:項目「ステータス」が「完了」に変更されたとき)。

⑤ 【フローの最適化】

「レコードの更新を実行する高速項目更新」または「アクションと関連レコード」を選びます
(今回はメールや別レコード操作を含まない項目更新なので「高速項目更新」が最適です)。

3. アクション(要素)の配置と設定

- ① キャンバス上の [+(開始と終了の間)] をクリックします。
- ② 要素の中から [レコードを更新] を選択します。
- ③ 表示名(例: 「完了日時をセット」)を入力します。
- ④ 「更新するレコードを検索してその値を設定する方法」で、トリガとなったレコードを直接更新する設定を選びます。
- ⑤ 【項目の設定】:更新したい項目(例: `完了日時`)を選び、値にシステム変数 `{!$Flow.CurrentDateTime}`(現在の日時)を指定して [完了] を押します。

4. 保存と有効化

- ① 画面右上の [保存] をクリックします。フローのラベル名(例: 「事故完了日時自動セット」)を入力して保存します。
- ② 画面右上の [有効化] ボタンをクリックします。(※有効化しないと動きません)

画面フロー

例) 商談画面にボタンを配置し、クリックすると専用のヒアリング入力画面がポップアップしてメモが保存される

1. 新規フローの作成開始

- ① [設定] > [フロー] > [新規フロー] をクリック。
- ② [画面フロー] を選択して [作成] を押します。

2. 画面要素 (Screen) の配置と項目の追加

- ① 開始の下 [+] をクリック > [画面] 要素を追加。表示名に「ヒアリング入力画面」と入力。
- ② 右側のコンポーネントパレットから [テキスト] や [長文テキストエリア] を画面上にドラッグ&ドロップ。
- ③ それぞれの項目ラベル (例: 「お客様の要望」「次回連絡予定日」など) を設定し [完了]。

3. レコード作成要素の追加と保存・有効化

- ① 画面要素の下 [+] をクリック > [レコードを作成] を選択。
- ② オブジェクト (例: 「メモ」やカスタムオブジェクト) を選び、先ほど画面に入力された値 (例: `{!お客様の要望}`) を各項目にマッピングして [完了]。
- ③ 右上 [保存] (フロー名: 商談ヒアリング画面) > [有効化] をクリック。

4. フロー画面の配置

- ① フローを設置する画面を開き、右上の [歯車マーク] > [編集ページ] をクリック (Lightning アプリケーションビルダーが開きます)。
- ② 左側のコンポーネント一覧から [フロー] を画面上の好きな位置にドラッグ&ドロップ。
- ③ 配置したフローコンポーネントの設定画面で、作成した「商談ヒアリング画面」を選択し、[保存] > [有効化] を行えば、商談画面上にヒアリング画面(またはボタン)が表示されます。

スケジュールトリガフロー

例) 毎日夜間に自動実行し、契約期限が「今日」でかつステータスが「未更新」の顧客を抽出して担当者に通知タスクを作成する

1. 新規フローの作成開始

- ① [設定] > [フロー] > [新規フロー] をクリック。
- ② [スケジュールトリガフロー] を選択して [作成] を押します。

2. スケジュールと対象オブジェクトの設定

- ① 開始日時：実行を開始する日付と時刻（例：毎日 23:00）を指定。
- ② 頻度：「毎日」を選択。
- ③ オブジェクト：対象のオブジェクト（例：「取引先責任者」や「契約」）を選択し、絞り込み条件（例：契約期限 = 今日）を設定。

3. レコード作成・アクション要素の配置

- ① 抽出されたレコードに対して実行するアクションとして [レコードを作成] または [メールアクション] を配置。
- ② 「タスク」オブジェクトを作成し、件名に「契約更新の確認が必要です」、割り当て先に関係者を指定して [完了]。
- ③ 右上 [保存]（フロー名：契約期限アラート通知） > [有効化] をクリック。

フロー作成における重要テクニックと便利機能

1. 変数・リソースの活用

フロー内で一時的にデータを保持したり計算させたりするには「変数」を作ります。例えば、テキストを保存する変数や、数値をカウントする変数などを定義して動的な処理を組み立てられます。

2. 数式(Formula)の活用

フロー内の条件分岐や値の代入で、IF 関数や TODAY 関数などの数式を使えます。例えば、期限日を「今日から 3 日後」に自動設定したい場合は、数式リソースで `TODAY() + 3` と設定して項目に渡すことができます。

3. メール送信に関する補足

メールアクションや通知機能でメールが届かない場合は、Salesforce の[設定] > [メールの送受信] > [メールの転送](または組織のメール送信設定)が有効になっているか必ず確認してください。

4. デバッグ機能を使った動作テスト

フロービルダー画面上部にある [デバッグ] ボタンを使うと、実際にデータを保存する前に「特定のレコードを更新したらフローがどう動くか」をテスト・シミュレーションできます。デバッグモードで実行することで、エラーの原因箇所も一目でわかります。

トラブルシューティング(動かないときのチェックリスト)

「フローを作ったのにうまく動かない...」というときに見直すべきポイントです。

よくある原因	確認・対処方法	予防のコツ
フローが有効化されていない	フロービルダーの画面右上に「有効化」ボタンが残っていないか確認する。(無効のままだと動きません)	保存したら必ず「有効化」を押す癖をつける。
開始条件が厳しすぎる	「作成されたとき」と「更新されたとき」の条件が一致していない、または変更前後の値の判定ミスがないかデバッグで確認する。	最初は条件をシンプルにして動作確認する。
プロファイルの権限不足	フローを実行しているユーザーが、対象オブジェクトや項目の「参照・編集権限」を持っているか確認する。	システム管理者権限のテストユーザーで動作確認する。
無限ループエラー	レコード更新の条件が緩いため、フローが何度も自分自身をトリガしてしまい Salesforce からメール警告が届く現象。	「レコードが更新されたとき」の条件に「前回と値が変わったとき」の判定を必ず含める。

✦ まとめ

「要件定義・サンドボックス検証・テスト・本番リリース」の4ステップを踏みつつ、3つの基本フローを正しく使い分けることで、Salesforce 内の業務自動化を安全かつ確実に実現できます。
最初は難しく感じるかもしれませんが、まずは「簡単なレコードトリガで項目を1つ更新するフロー」から作ってみることで、仕組みが直感的に理解できるようになります。

公式ヘルプ・参考リンク

さらに高度な設定や最新の仕様を確認したい場合は、以下の Salesforce 公式ドキュメントおよび学習ツールをご活用ください。

Salesforce 公式ヘルプ:[フローおよびフロービルダーの概要](https://help.salesforce.com/s/articleView?id=platform.automate_flow_about.htm&type=5) (About Flows and Flow Builder)

https://help.salesforce.com/s/articleView?id=platform.automate_flow_about.htm&type=5

Salesforce Trailhead:[Flow Builder](https://trailhead.salesforce.com/ja/content/learn/trails/build-flows-with-flow-builder) を使用したフローの作成(学習トレイル)

<https://trailhead.salesforce.com/ja/content/learn/trails/build-flows-with-flow-builder>